

## 「水引中学校の郷土芸能伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立水引中学校

### 2 学年・人数

1年 36人 ※水引小 5年24人・6年20人との合同学習

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

- ・ 練習及び調べ活動：6～11月 ふるさと・コミュニケーション科
- ・ 史跡等訪問：平成26年6月27日（金）  
水引地区次郎次郎踊り，水引地区みなと六尺棒踊り  
久見崎地区想夫恋，西方地区波乱踊り  
寄田地区棒踊り，湯田地区下湯田兵六踊り

#### (2) 発表の日時・場所

- ① 平成26年11月9日（日） 水引校区総合文化祭
- ② 平成26年11月18日（火）  
水引中学校区小中一貫教育実践発表会
- ③ 平成27年2月2日（月）  
水引中ふるさと・コミュニケーション科発表会

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能・伝統行事について

#### (1) 名称・由来等

- ・ 次郎次郎踊り（じろうじろうおどり）  
水引町草道地区に伝わる郷土芸能である。「次郎次郎踊り」は，五穀豊穰・害虫駆除（虫追い）を祈願して射勝神社（いすぐるじんしゃ）に奉納される踊りである。毎年3月第一日曜日に奉納されている。
- ・ みなと六尺棒踊り（みなとろくしゃくぼうおどり）  
港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ，農地荒廃，賦役頻繁，自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は，棒で護身するしかなかった。港地区では昭和27年に青年団により踊られたのを最後に長年途絶えていたが，70歳代の方々が中心となり50年ぶりに復活した。現在，保存会の方々が中心となって継承し，毎年6月に新田神社に踊りを奉納している。
- ・ 想夫恋（そうふれん）  
久見崎町に伝わる郷土芸能である。1587（慶長2）年の，慶長の役に出兵した島津軍は久見崎の港から出航した。その戦いで戦死した夫や子供らを，女性たちが供養するために踊った踊りである。1971（昭和46）年に，鹿児島県指定無形民俗文化財に指定されている。現在は，婦人会を中心とした「久見崎盆踊保存会」が継承し，毎年8月16日に踊られている。
- ・ 波乱踊り（ばらおどり）  
西方町に伝わる郷土芸能である。1600（慶長5）年の，関ヶ原の戦いで敗

れた島津軍が薩摩に逃げる時、武士であることを隠すために、農民に扮し踊りながら退去したことが発祥と言われている。旧西方小学校で継承のための練習が行われていたが、現在、休止中である。

- ・ 寄田三尺棒踊り（よりたさんじゃくぼうおどり）

寄田町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地荒廃、賦役頻繁、自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は、六尺または三尺の棒で護身するしかなかった。三尺棒つまり乳の高さまでの棒を乳切り木（ちちぎりき、川内では「ちぎいぼ」）という物を担ぎ、護身に用いた。もともと武術の一種とも言われるが、一説には田打ち行事の一つで、地面をとんとん突くのは田開きで虫追いだとする農耕儀礼説もある。終戦後しばらく途絶えていたが、1963（昭和38）年に県の無形民俗文化財に指定され、その伝統を受け継ぎ、土地の青年団が中心となって昭和46年に復活した。現在、保存会の方々に引き継がれ、新田神社にも踊りを奉納している。

- ・ 下湯田兵六踊り（しもゆだひょうろくおどり）

湯田町砂岳地区に伝わる芸能である。江戸時代中ごろに書かれた「大石兵六夢物語」をもとにした物語風の踊りで、五穀豊穡を祈願し地元諏訪神社に奉納されている。現在、数年ごとに踊られている。

## （2）構成等



水引地区次郎次郎踊り

白手拭いの覆面姿のテチョ（丁長）が木鋤で田打ちをしたり、「トッゴロ」と呼ばれる火のついた丸太で、害虫に見立てた見物客を追い回したりして暴れ回る。途中、コッテウシが登場し暴れ回る。最後にヨメジョ（嫁女）が現れ、赤ん坊（袋に入った朮もみ）を産み落とし、テチョが持ち上げて喜ぶ仕草をする。



みなと6尺踊り

青色のはちまきと赤いたすきを付け、歌者の歌、かけ声に合わせて約180cmの棒を使い地面を棒でたたいたり、複数人数の棒を体の上・下部で合わせたたたいたりしながら踊る。



想夫恋

御高祖頭巾をかぶり、男ものの羽織を着て、腰に脇ざしを落しざしにし、三味線と太鼓に合わせて踊る。七七七五調の歌につれて円陣をつくり、合掌したり、遠くを招くような仕草をくり返したりと、ゆっくりとしたテンポの素朴な踊りである。



西方波乱踊り ※ 旧西方小練習様子

3曲ある歌者の歌に合わせて、竹で編んだバラ(梅干し等を干す入れ物)や鐘を手に持ち、行進や円状の隊形を造りたたきながら踊る。



寄田三尺棒踊り

3列縦隊、6人1組で踊り、3～4組で打ち合い踊る。長さ三尺の木刀を持って勇壮に踊る。「おーせーろー」の歌に合わせて踊り子が奇声を上げながら踊りの体験を整える。「さーさーさ」の踊り出しの歌と同時に「ほい」と踊り子は小手をかざして木刀を使いながら踊りはじめ威勢よく踊る。



下湯田兵六踊り

3幕構成で約40分。悪さをするキツネ退治に出かけた二才(ニセ)の兵六が、キツネが化けた娘やお坊さんにたぶらかされ頭を丸められるが、最後は見事にキツネを捕まえる物語。それぞれの登場人物の衣装を着けアドリブを交えユーモラスに演じる。

## 5 保存会や地域との連携の具体

ふるさと・コミュニケーション科の時間に、水引・西方・湯田・滄浪・寄田の各地区コミュニティ関係者及び各保存会の責任者を中心に郷土芸能に詳しい講師を調査・選定・依頼し、学習の趣旨の説明や指導してもらいたい内容の打合せを行った。学習会当日は、各区コミュニティセンターや学校に講師の方々に集ってもらい、事前にグループ分けした生徒たちに指導していただいた。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

実際の学習では、各地域コミュニティセンターや学校で、グループごとに講師から踊りの由来・内容等についての説明を聴いた後、生徒たちは実際に衣装を着けさせてもらうなどしながら説明の内容をまとめたり、郷土資料を活用し調べたりしながら発表資料を作成した。また、みなと六尺棒踊り、寄田三尺棒踊りは保存会に入っている生徒を中心に踊りを交えながら発表の準備を行った。

## 7 取組の様子

(ふるさと・コミュニケーション科，小中一貫教育実践発表会，水引校区総合文化祭)



次郎次郎物語調べ学習の様子



波乱踊り説明（小中一貫教育実践発表会）



寄田三尺棒踊り（水引校区総合文化祭）



みなと六尺棒踊り（水引校区総合文化祭）

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

○ 寄田の棒踊りの歴史や踊られるようになった理由を知ることができてとても勉

- 強になりました。保存会の人からもっと棒踊りのことを習い踊れるようになりたい。
- これまで見るだけだった水引の次郎次郎踊りの衣装を着け、こんなのを着て動いていたのかと感心した。教えてくださった地域の皆さんがとても親切だった。
  - 西方の波乱踊りが今踊られていないことを知り、少し残念な思いがした。歴史ある踊りなので続けてもらいたい。

**【教職員】**

- 各地区に伝わる伝統行事についてとても興味を持って学習していた。講師の都合等課題も考えられるが、学校として伝承活動に協力する必要があると改めて感じた。
- 校区内の5地区の伝統行事を学習の中に取り入れることは、合併統合により校区が広がった本校にとって、生徒だけでなく各地域住民にも校区としての一体感を醸成することに役立つと考える。とても成果の多い学習であったと思う。

**【地域の方から】**

- 生徒たちが、地域の伝統に興味を持ってくれることは誠に嬉しい。過疎化が進む中で一人でも多くの生徒が後継者として育ってもらいたい。